

取材先	NPO法人コバルトブルー下関ライフセービングクラブ		
企画名	活動紹介		
備考			
取材日	2025年4月16日(水)天候[晴れ] [14:00~15:00]	取材地	渚の交番島戸

レポート

NPO法人コバルトブルー下関ライフセービングクラブは、「サーフィンを文化にしたい」という願いを込めて2002年からその志を共有する仲間達とビーチクリーン活動を始め、それにあわせてボランティアで角島のコバルトブルービーチの水面監視を手伝うようになった。そして人命救助について学び、更に強い安全管理体制を構築すると共にその活動範囲を広げていくことを切望し、2012年に団体を設立した。また、宮崎の渚の交番を参考に、NPO法人コバルトブルー下関ライフセービングクラブの拠点である渚の交番島戸を建設した。

NPO法人コバルトブルー下関ライフセービングクラブは、東亜大学の学生とボランティアでビーチの救命活動を行うことや、子ども達に無料でバーベキュー、透明カヤック体験を提供し自然とのふれあいを増やすことで成長や自己肯定感の向上を促したりと、「持続可能なコミュニティ」を目指す活動を多く行っていた。他にも、空き家をリメイクしたゲストハウスの運営や海での体験をサポートする学生向けイベント、青山学院大学のボランティアサークルの協力で農業体験なども行っていた。

ここでは、高齢化や少子化といった人口減少問題や環境問題など、世界全体で取り組まれている課題を改善しようと、さまざまな活動を行っていることが印象的だった。実際に、若者が地域に根付いて暮らせる町づくりや、海を美しく安全に保つ活動、SDGsやWell-Beingなどを考慮した取り組みが行われており、これらの活動は地域社会の活性化や環境保護というだけでなく、私たち一人一人の生活に関わることであるため、持続可能な未来を築くために、今できることから始めていかなければならないと考えさせられた。

